

令和3年度 広島市立看護専門学校学校自己評価概要

広島市立看護専門学校では、平成16年度から自己評価による学校評価に取り組んできました。学則第1条の第2第1項「学校は、教育水準の向上を図るとともに、前条の目的を達成するため、学校の教育活動その他の学校運営の状況について自ら評価を行い、その結果を公表するものとする」に基づき、令和3年度の結果を公表いたします。

（前条：学則第1条「広島市立看護専門学校は、学生に対し、看護師として必要な知識及び技術を修得させ、医療の普及及び向上に貢献し得る有能な人材を育成することを目的とする。」）

教育理念

- 1 豊かな人間性や倫理的配慮をもって、地域社会に貢献できる看護師を養成する。
- 2 専門職者として、自己教育力をもって自律できる看護師を養成する。
- 3 時代のニーズに対応し得る看護の専門的知識・技術、臨床判断能力を備えた看護の実践者を育成する。

「4：できている」「3：ややできている」「2：ややできていない」「1：できていない」から、
 あてはまる点数を記入

n=31 (回収率100%) 配付数31 回収数31 (うち有効回答数31) 赤字：平均値3.4以上 (12項目中9項目)

項目	主な内容	R3 (期末)			学校としての取り組み事項
		最頻値	平均	SD	
学校運営	教育理念・目的	3	3.2	0.6	昨年度に引き続き保護者説明会やオープンスクール、コスモス祭が中止となり、保護者に学校の理念や経営計画等、直接説明できなかった。コロナ禍の状況をみて次年度はHPを活用する等、情報提供の拡大について検討していく。学生に対しては、学生生活アンケート結果を掲示し共有した。教職員に対しては、学校自己評価の結果（学生生活アンケート・教員評価）を閲覧し、その後説明した。また、中間評価・意見を参考に後期に向けての課題を一つ抽出し、後期に向けての改善策の立案と実践を促し、個々の意識化へ繋げた。
	学校運営に関するマネジメント	3	3.1	0.6	①運営会議は毎週1回開催。学生に関すること、学校運営に関することを協議し、決定した。五施設代表者会議は2回/年開催し、コロナ禍の感染予防対策、実習条件を確認し、臨地実習の依頼・調整を行う等、広島市立病院機構の4病院と連携を図った。 ②事実発生時のシステム変更を行った。事実発生時は早期に全員に周知し、同時に係長・専門員と一度協議して方向性を定め、改善策においてはマニュアルの周知や改訂等の具体的な改善に繋げた。今後はマニュアル改訂の検証などを行っていく予定。 ③④学校自己評価は計画通りに実施。昨年度から遠隔授業を導入しており、遠隔授業の効果と教科別の良い点・悪い点を学生に調査した。その結果、遠隔授業の効果あるが85.6%を示した。資料や教科書中心の教科は遠隔で良く、逆に技術や実習に関する項目は遠隔にしてほしくないとの意見を得た。学生生活評価においては、令和2年度からの学校目標である「看護の魅力を感じる」は90.4%まで上昇した。教員の学習サポート・精神的サポート・相談しやすさも上昇した。 ⑤朝礼は毎朝継続し、必要事項は掲示板を活用し周知した。また、県・市等の感染状況・予防対策等の情報、裏面には当校（学生や教員）の新型コロナウイルス感染者・濃厚接触者に関する情報について掲示し、教員間で共有した。 また、8月より主任会議を再開し、教務連絡会議の2回/月のうちの1回を充当した。より身近な情報から問題を共有し、課題解決に向けた協議の場とするとともに主任としての主体性の向上や主任間の連携強化、学校運営への積極的な参画を期待している。主任会での協議事項を教務連絡会で審議した。年度途中での会議の運営方法を変更に伴う混乱や課題もあるため、次年度も継続し効果的な運営に繋げていく。
教育活動	教育課程	4	3.5	0.6	①昨年度より新型コロナウイルス感染対策のために、カリキュラムの時間や方法を変更することはあったが、教育課程は変更することなく対応できた。次年度、第一看護学科入学者より新カリキュラム導入となる。「新カリキュラム作成委員会」を設置し、委員中心に取り組み県への申請が終了した。次年度は第二看護学科の新カリキュラム導入に向け、新たな評価方法を導入すべく検討している。 ②学生の単位修得に関して検討が必要な時には、状況を十分に把握し、便覧やシラバスを常に確認し、事例ごとに対応した。単位認定会議（進級）については3月開催し、結果については学生に説明した。 ③卒業認定会議については2月に開催して認定を確認し、3月10日に全員が卒業に至った。 ④学生の未履修科目については、教員が学生と面接をしながら、情報共有に努め、学生合意のもと対策を講じている。
	シラバス（授業計画）	4	3.5	0.6	市内の感染状況に応じて、昨年度より遠隔授業を導入。今年度はさらに操作方法や内容を拡大し、学生の理解を深められるように随時授業方法を変更して対応した。また、臨地での実習の経験の機会が少なく、学内実習への切り替えや密を防ぐなどの対策を講じながら、学習内容の確保に向けて教員が協力し取り組んだ。新型コロナウイルス感染対策を継続し、学生の協力も得られ、計画したり授業計画は全て実践した。
	実習	4	3.4	0.7	①②臨床指導者会議は実習施設と臨地実習をいつでも再開できるようにほぼ予定通り実施し、情報共有に努めた。また、コロナ禍の現状理解の共有に努め、より連携が図れるよう研修の機会を得た。精神科の新規実習施設を2施設開拓。次年度はさらに1施設の協力を得た。また、ケア、老健施設も1施設ずつ増えた。さらにコロナ禍による臨地実習経験不足の実態から、第一看護学科3年生の実習受け入れに1施設の協力を得られた。学内では、リアリティのある実習を計画し、「シナリオ」2体や「産科の模型の人形」を活用することで、臨地に近い実習環境調整に取り組んだ。 ③④実習時の患者への配慮は、臨地実習要項内、個人情報保護、契約書・同意書について、臨地実習の心得等を記載し、学生への説明を行うとともに、臨地実習指導者会議でも実習先と情報共有を行っている。また、インシデント・アクシデント発生時は、報告システムに沿って実践している。提出内容は学内での実習が続く中で、患者の情報の取り扱い（個人情報の取り扱い）に関する内容がほとんどであった。学内実習での模擬患者の個人情報の取り扱いとなり、個人情報としてのイメージがつきにくいところが、この点については繰り返し学生指導を繰り返している。
学生支援	学生支援	4	3.5	0.6	①スクールカウンセリングに関してはコロナ禍2年目となり、対面と遠隔での実施を行った。学生生活アンケートの「スクールカウンセラーによる安心感」については、今年度も3.6ポイント上昇（中間からは6.4ポイント上昇）した。 ②昨年度からチューター制も残しつつ担任制を導入中。ただし、教員間でチューター制と担任制の役割が曖昧であったり、担任に情報が集約するメリット、業務量の増加などの現状を把握し、周知や改善などの検討を行っていく必要がある。学生の健康診断は、今年度もコロナ禍ではあったが、調整して予定通りに実施することができた。 ④自治会活動は、コロナ禍2年目であり、オープンスクールやコスモス祭の開催など、その都度、教員が親身になって一緒に検討し対応した。行事は代替案で実施できたものもあったが、ほぼ中止となった。食堂の閉鎖に対してはパンの販売（学生の当校日を考慮して）を調整した。 ⑤図書室利用については、学生アンケートでは昨年度は「図書室は利用しやすい」がポイント低下を示したが、今年度は「図書室の蔵書は充実している」と併せて上昇した。ただし、図書室で購入希望をしても2回なので、欲しい時に欲しい本が借りられないとの意見もあり、今後検討していきたい。
	学生支援	4	3.5	0.6	①学生が学修を継続できる支援体制を多角的に、かつ学生が利用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか。 ②学生の心身両面での健康管理体制が整っているか。 ③学生生活、進学、就職に関して学生の相談に十分にに応じているか。 ④学生主体で自治会活動が実施できるよう計画的かつ適切な指導・支援を行っているか。 ⑤図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。
教職員の育成	教育技術の向上	4	3.5	0.5	①③教員研修は、昨年度からWeb配信になる研修も対象としたことから、希望する25名の教員は全員研修・学会に参加することができた（全体の83%参加）。復命書と研修参加資料を閲覧し、研修内容の共有も図れている。 ②職場内研修は、夏季と春季の2回（夏季は8/5、春季は3/23）開催し、情報共有や意見交換の場を設けた。 ④公開授業は今年度も教育委員会の指導主事を招き、成人のカテゴリーで実践して講評・助言を得た。また、授業後に「主体的で対話的で深い学びを引き出す指導法及び評価の工夫」について教授を受け、教員個々の授業方法や評価の視点を見直す機会となった。 他のカテゴリーの公開授業は小児・在宅の2つで実施した。授業研究は母性、精神、基礎、統合の4つで予定通り実施し、教員間で共有した。
	看護教員の育成・確保	3	3.0	0.7	①今年度は看護教員養成講習会（新型コロナウイルス感染対策により昨年度は中止）が開催され、昨年度受講予定の1名が受講した。そのため、今年度は人事交流はなし。次年度は1対1で交流再開予定であり、次年度の交流予定者1名に対し、専任教員資格の有無により同講習会を受講する予定である。 ②昨年度から新型コロナウイルス感染対策のための遠隔授業や学内（臨地）実習の継続となった。教員への負担も2年目となり疲労を感じているが、個々のアイデアや努力、協力のもと学校運営に多大な貢献をしている。また、今年度はワクチン接種の日程調整、授業や実習の変更・調整などが加わり、さらなる過重となったが、柔軟に対応し協力を得られた。 昨年度から担任制を導入し2年目となる。コロナ禍2年間の運営となったが、担任教員のメリットや逆に業務量の負担等の調査が必要である。また、教員間での情報の共有や連携の課題が表出されている。働きやすい職場環境づくりのためには風通しの良い職場風土となるようアンケートの結果の共有や業務改善、個々への意識付けなど、職員一同で取り組みたい。また、年休取得を促し、仕事と休日のメリハリに繋げたい。
入学・就業・就職	入学者の確保	3	3.4	0.6	①新型コロナウイルス感染症予防対策により、オープンスクール・学校祭同時開催の学校説明会ができなかったが、可能な限り外部主催の学校説明会に向き、計20会場、対象者256名にガイダンスを行った。学校への個別訪問や、参加エリアを拡大し対応した。また、学校のパンフレットや募集要項の配布をより多くの人に届くように拡大した（希望者、実習先、市役所の市民広場など）。 ②准看護師が減少する中、第二看護学科の受験生の減少が予測されたことから、昨年度から「数学」を受験科目から除外し、受験生確保に取り組んだ。その結果、第二看護学科は、59名、また第一看護学科は169名の出願があった。試験はコロナ禍であり、陽性者に対して追試験を実施して受験者への対応を行い、入学試験選考基準に基づき判定した。
	国家試験合格率・就職率100%	4	3.5	0.7	①昨年度から「国家試験対策委員会」を復活させ、3年間で国家試験対策に取り組み、今年度は99.1%の合格率であった。新型コロナウイルス感染対策のために、遠隔授業や課題学習が多かったが、「国家試験対策委員会」を中心に、遠隔による学習支援等を工夫して継続した支援を行った。遠隔での模試中心であったが、後半は学内での模試に切り替え、国家試験対策の強化に繋がった。 ②2年生を対象とした、就職ガイダンスを2回開催した（1回目は機構等6施設からのガイダンスで、時期も10月に早めた。2回目は卒業生からの体験談）。 ③臨床指導者会議等の機会を活用し情報共有を行っている。臨床指導研修会の継続開催では、臨床指導者との共通理解を深めることができた。
地域との連携・社会貢献	学校の情報発信	4	3.5	0.6	新型コロナウイルス感染予防対策により、オープンスクール、学校祭同時開催の学校説明会は中止となった。しかし、年2回の「学校便り」を発行し、またホームページを適宜更新し、広報活動の一つとして継続している。 学校説明会への参加時はipadを用いてパワーポイントや写真などを示してイメージしやすく説明を行った。学生募集に関して、広島市のユーチューブで学校紹介を開始した。
	看護教員の社会貢献	3	3.2	0.7	県看護協会が主催する「まちの保健室」は担当が中止となった。 県看護協会からの依頼に沿って広島市保健師助産師看護師実習指導者講習会の助言者や講師として教員を派遣した。 看護協会主催の災害支援訓練に協力し、本校の看護教員1名が災害支援ナース派遣者（訓練）に選出された。 看護協会主催の施設代表者等研修会では、「コロナ禍における新人教育の体制整備について」のテーマで臨地現場からと教育現場からの合同研修会が開催され、基礎教育から継続教育に繋げる視点を共有する機会となった。
平均		3.6	3.4	0.6	

外部関係者のご意見

<学校運営目標に関して>

・感染拡大に伴い、臨地実習はわずかな期間となったが、いつでも実習が再開できるよう臨床指導者会議は予定通り開催し、情報交換もでき実習がスムーズに開始できた。

- ・会議を通じて、学校運営・臨地実習の目的・目標などを共有することができている。
- ・授業に講師派遣を行い、学校運営目標を共有し協力することができた。

・教育理念の実現に向け、教育課程の編成及び実施、学校運営に関するマネジメント、教職員の技術の向上、地域との連携・社会貢献等、多方面にわたる視点から学校運営目標を設定しており、組織的な学校運営が行われている。今後も、社会の変化や教育の動向に注視しつつ、本市の看護教育の更なる充実に向けて取り組んでほしい。
 ・今後も教育理念や目標にあるように、学生たちが主体的に学び自立していけるようサポートを続けてほしい。

<活動内容に関して>

- ・教育理念の実現に向けて、今年度は新カリキュラム作成委員会の設置、昨年度導入した遠隔授業の拡大など、社会の動向や学生の実態を常に意識した取組について、適宜改善を加えながら、適切に教育活動を行っている。今後も教職員の連携を密にし、各取組について学校全体で、組織的な教育活動を行ってほしい。
- ・コロナ禍における臨地実習経験が少ない中で、学内での実習・看護技術習得に対する取り組みは高く評価できる。
- ・常に先生方が学生のことを考え、手厚いサポートをされている。
- ・感染対策をしながらの実習で学生個々が病院に与える影響について、しっかり認識できるよう引き続き指導していただければと思います。病院側も学生を信用して受け入れていることを学生には伝えてほしい。
- ・臨床指導研修会（4日間）、実習指導者会議での研修では、臨床指導者やフレッシュパートナーをはじめとする人材育成にかかわる指導者の教育に役立てることができる評価の高い研修である。臨床では、学校との連携を課題として捉え、指導者が協力してできることを検討していたので、臨地実習中止の間も連携が図れることを臨床指導者にも期待している。

<自己評価結果（数値評価）に関して>

- ・コロナ禍における学生サポートは前年度よりさらに充実した取組がなされ、学生が安心して学びを継続できる環境づくりにつながったと感じる。
- ・自己評価の平均が昨年同様高く、特に国家試験対策および、次年度からの新カリキュラム導入のため組織的に取り組まれていた。
- ・今年度の結果をもとに取組の成果と課題について分析し、来年度に向けて、目標の重点化や改善策の検討を行い、引き続き、より質の高い教育活動を実施してほしい。

<その他 ご意見・御要望等>

- ・学校運営の改善や教育活動の質向上を恒常的に進めていくためには、外部の有識者の意見を直接聞くことのできる会議を設置されたら如何でしょうか。書面のみでは難しい点もあります。
- ・学生間で情報共有をしっかりと行い、グループダイナミクスを発揮できるような関わりが持てたら良いと思う。カリキュラム変更により、臨地実習内容に変更する点があれば教えてほしい。
- ・2022年度は実習が再開できるよう心待ちにしております。また、職員と教員の方の定期的な異動が更に進むと学校・病院の連携が深まり、良い方向へ行くと思います。